

観て、触れて、感動した “いいだ人形劇フェスタ2005”



糸あやつり人形「獅子舞」の情景

今年は、各分館の公演と本館公演、また、本館での有料公演など、盛りだくさんの公演が行われました。地区内、最初の公演は、八月四日時又ふれあいセンターで行われました。東野地区の婦人の皆さんたちによる「人形劇あかね」と、「人形劇トムテ」の公演でした。

人形劇あかねの演目は「三枚のお札」ともユニークな顔をした人形たちに、テンポよく和尚さんのたたく木魚の音がリズムカルで、見ている子どもたちも、声をだして笑いながら、たいへん楽しめました。

会場の暑さと観劇者の熱気が溢れ、劇人も汗だくで、紙芝居は、昭和二十年代に作られた、ちょっとおっかない顔をした「黄金バット」でした。普通紙芝居という絵の裏側にストーリーが書いてあり、それを読むというイメージですが、この黄金バットは、昔ながらの紙芝居でストーリーはおじいさんの頭の中で、現在の話でも混ざりながら、面白おかしく語られ、人形劇とはまた違った楽しみ方ができま

今年、真剣な眼差しの子どもたちも、汗びっしょりになりながらの鑑賞となりました。

長野原区民センターでは、「劇団さくらんぼ」と「紙芝居梅田佳声」の公演がありました。

人形劇は、人形というより、劇人がぬいぐるみを着てそのまま登場して、一般的な人形劇と比べると大きな人形といった感じでした。観客席との隔たりもなかったため、大変身近な、迫力のある人形劇でした。

紙芝居は、昭和二十年代に作られた、ちょっとおっかない顔をした「黄金バット」でした。普通紙芝居という絵の裏側にストーリーが書いてあり、それを読むというイメージですが、この黄金バットは、昔ながらの紙芝居でストーリーはおじいさんの頭の中で、現在の話でも混ざりながら、面白おかしく語られ、人形劇とはまた違った楽しみ方ができま

飯田市の夏の祭典「いいだ人形劇フェスタ2005」が八月四日から七日まで行われました。今年も、竜丘地区にすばらしい人形たちとの熱い感動や出会いを残しました。



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,868人
男子 3,375人
女子 3,493人
世帯数 2,187戸
(17年8月末現在)

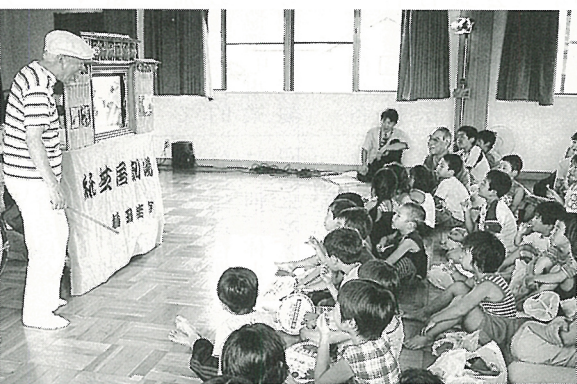
上川路公民館の公演は、「江戸糸あやつり人形」でした。

二十五本の糸で全てあやつり、その中の四本の糸でメインの動きをするそうです。かっぱれや、獅子舞などの演目を披露してくれましたが、まるで人間が踊っているようで、とても人形とは思えないほどの絶妙な動きに、観客一同息を凝らして見とれました。

桐林分館は、公民館大ホールで、地元「演劇塾」劇団の熱演に酔い浸りました。

今年の初めの試みとして、有料公演と、海外劇団の公演がありました。

有料公演「人形劇団クラテ」は、宮沢賢治名作の「銀河鉄道の夜」を公演し、観衆がすっかり魅了されました。大人に人形劇への親しみと、芸術としての理解を深めてもらおうと計画された。会場の竜丘公民館大ホールいっぱいを使い、座席も工夫され、見せる演



キャンディーをもらって、紙芝居を見た

海外劇団「シルバー人形劇会」は、韓国のおばあさんたちの劇団で、言葉の問題など心配な点もありましたが、軽快な音楽にあわせての公演で、充分楽しむことができました。

交流会では、大人の学校や、小学校の煎茶クラブにも協力を得ながら、こころで通じ合う交流会となりました。

去る七月十六日、梅雨明けで蒸し暑い中、親子映画鑑賞会が公民館大ホールで開催されました。当日は二百人を越える親子が集まり映画を楽しみました。

今回、上映した映画は、「おもひ、かえるの歌がきこえるよ」です。知的な遅れと体の障害があり、養護学校へ通う双子の妹、いつも酸素ボンベで呼吸しなければならぬお母さんですが、明るく負けず嫌い、天真爛漫な女の子、そんな妹をいとおしく思う兄・力(りき)ある日、お母さんは病気が

のクラスとの交流授業を中絶し入院することになってしまいました。運動会のリレーの応援を楽しみにしていたお母さんのために、みんなで練習し勝ち取った優勝。しかし、お母さんに伝えることができませんでした。

家族の愛と葛藤、健常者と障害者の共生の難しさなどを通して生きる喜びと悲しみが感動的に描かれていて、命の大切さを親子で考える一夜となりました。

体育委員では、多くの地区民が参加しやすい事業として、はつらつフィットネスとペタンクマスターズを行いました。

はつらつフィットネスは今年で二回目になります。内容は、ストレッチ体操を行ない、保健師さんによる成人病や食生活などの健康に関する話を聞きました。

その後、参加者一人一人の体力測定を行いました。測定結果を平均年齢のデータと比較して、今の自分の体力の状況を知りました。最後に次に開催されるペタンクマスターズの講習会を行いました。



ビュットめがけて

ペタンクマスターズには分館チームの他に、小学生や家族、友達同士など二十四チームが参加しました。ペタンクは、三名一チームで戦うチーム対抗種目です。六から十メートル先のビュットと呼ばれる目印に鉄球を投げ、相手のチームの鉄球より、ビュットにより近くたくさんの球を集める競技です。

試合は、数センチを競う程白熱したゲームもあり、グラウンド内に選んだの熱い声の響きわたっていました。また、お年寄りとお孫の年齢差のあるチーム対戦もあり、世代を越えた交流ができました。ペタンクは、三名一チームで戦うチーム対抗種目です。六から十メートル先のビュットと呼ばれる目印に鉄球を投げ、相手のチームの鉄球より、ビュットにより近くたくさんの球を集める競技です。

試合は、数センチを競う程白熱したゲームもあり、グラウンド内に選んだの熱い声の響きわたっていました。また、お年寄りとお孫の年齢差のあるチーム対戦もあり、世代を越えた交流ができました。ペタンクは、三名一チームで戦うチーム対抗種目です。六から十メートル先のビュットと呼ばれる目印に鉄球を投げ、相手のチームの鉄球より、ビュットにより近くたくさんの球を集める競技です。

人間の心とは弱いもので、平常心でありたいと思っても時には怒り、時には悲しむものであるが、それは決して恥ずかしいことではなく、人間として自然な姿だと思ふ。だからこそ万歳くらいは、心からうれいと思ふ時に、感情を思い切り表現したいものである。

よく分からないといえば、衆議院議長が解散を宣言した途端、議場にいる国会議員はこぞって万歳をする。解散がうれいのだろうか、議員は一様に選挙が嫌いだと思っていたが……。

話はわかるが、今年戦後六十周年である。

放送局もこぞって戦争に関連のある映画、ドラマ、ドキュメントを流している。ふと気が付くとそこにも同じような光景があった。

戦地へ向かう若者を前に見送りの人々が万歳をしている。中には、若者の母や兄弟、親族に友達もいるはずで、誰ひとりとしてうれしい気持ちの人は、いないと思ふのだが……。

「喜怒哀楽」という言葉がある。

命の大切さを考える 親子映画鑑賞会



衆議院が解散した。さきの国会の参議院で、郵政民営化法案が否決され解散した。

政治に詳しくない私には、なぜ参議院で否決なのに、衆議院が解散するのかよく分からないが、聞くところによると、総理大臣には参議院の解散権がないから衆議院を解散したらしい。

郵政民営化の是非はともかくとして、選挙には莫大な費用がかかる。税金のムダ使いは極力さけてもらいたいものだが、こうなった以上は、いち有権者としてよく考え一票を投じたいものである。

よく分からないといえば、衆議院議長が解散を宣言した途端、議場にいる国会議員はこぞって万歳をする。解散がうれいのだろうか、議員は一様に選挙が嫌いだと思っていたが……。

話はわかるが、今年戦後六十周年である。

放送局もこぞって戦争に関連のある映画、ドラマ、ドキュメントを流している。ふと気が付くとそこにも同じような光景があった。

戦地へ向かう若者を前に見送りの人々が万歳をしている。中には、若者の母や兄弟、親族に友達もいるはずで、誰ひとりとしてうれしい気持ちの人は、いないと思ふのだが……。

「喜怒哀楽」という言葉がある。

知恵を出し 地域自治を考えあおう

地域自治組織導入について方針示される

◇… 去る九月二日に竜丘自治協議会が、市から新たに示され…
 ◇… た「地域自治組織導入に関する基本方針」についての説明…
 ◇… 会を開催しました。説明会には、自治協議会や公民館、各…
 ◇… 種団体の役員の方が集まり、市庶務課の説明を聴きました…

地域自治組織の導入については、昨年二月に市政懇談会で中間報告がありました。そこで各地区から出された意見などを参考に、市内プロジェクトで検討し最終報告をするとしていたが、昨年十月に牧野新市長となり、最終報告をさらに検討し、今回、市の基本方針として示されました。

●地域自治組織導入の目的
 ①住民と行政との協働の場を創設し住民自治を拡充
 ②行政が地域住民に身近なところで住民に身近な事務を住民の意向を踏まえて効果的に処理
 ③個性豊かで魅力ある地域づくりの実行
 ④各種団体活動や行政の支援体制の再構築により、住民同士の連携・協力による総合的な地域づくりの推進
 ⑤機能的、効率的な行政運営の実現

●地域自治組織とは
 地区を単位とした、行政組織の「地域自治区」と住民団体の「まちづくり委員会」などを合わせた組織を指します。

地域自治区とは、市の条例により設置される行政組織の一部で、全地区に設置されます。区には、現在の支所機能が含まれる自治振興センターと地域協議会が設置されます。

地域協議会は地域自治区の核となり、地域住民の意向をとりまとめ、行政等に反映させる地区のミニ議会的な役割を持ちます。委員は上限二十名で市長が選任します。報酬は無報酬です。

まちづくり委員会は、各種団体を束ねた地域を代表する組織で、地域住民の総意で自主的な運営がされることとなります。

また、地域協議会が事業調整し、まちづくり委員会が事業執行をするため、地域協議会委員とまちづくり委員会執行部の兼務が望ましいとされています。

●各種団体の再編
 まちづくり委員会へ各種団体等を再編するにあたり市から一定の考え方が示されました。

●各種団体は、実情に応じ再編し、まちづくり委員会の構成団体として、連携協力し活動できるような組織とすることが必要。

●自主グループや再編されない団体等は、まちづくり委員会と連携・協力し活動できるような組織とする必要がある。

●専門的分野別で活動している各種団体のうち、目的が同じ団体は、協議し事業を見直しながら統合・再編を検討する。

再編にあたり基本的に各種団体の市連合組織は解散し、代わりに行政の情報伝達、地区間調整等を目的とした連絡調整会議を開催する。

なお、各種団体への市からの補助金や交付金などは、地域自治区への配分金としてまとめて交付する。

●地区公民館の位置付け
 まちづくり委員会の一委員

国際的研修員が 竜丘の地域活動を学ぶ

八月三十日、JICAの研修受け入れが行われ、今年も飯田を研修地域として十四名の外国人研修員の方々が、そしてスタッフ、日本福祉大学の学生を含め二十六名での参加がありました。

お昼には、大人の学校の参加地域社会開発手法が自国の開発の現場に生かすことができるレベルまで達する。をあげ一日学習

八月三十日、JICAの研修受け入れが行われ、今年も飯田を研修地域として十四名の外国人研修員の方々が、そしてスタッフ、日本福祉大学の学生を含め二十六名での参加がありました。

お昼には、大人の学校の参加地域社会開発手法が自国の開発の現場に生かすことができるレベルまで達する。をあげ一日学習



手作り料理を囲んでの交流

お昼には、大人の学校の参加地域社会開発の学習が目的なので、竜丘の公民館活動は地区住民が参加し、成り立っているすばらしいか。

八月二十一日と九月一日の両日、竜丘市民大学講座が公民館大ホールにおいて「防災」をテーマに開催され、多くの住民の皆さんが参加して防災に関する認識を新たにした。

八月二十一日に開かれた第一講は、約百名の皆さんが参加し、「復興を支えた間」にわたる避難生活では、生活のルールや治安の維持、食料等の平等な配給などに気を配ったことなどを話されました。

また、災害時に大きな助けになった若い担い手の育成や、高齢者や障害者などの援護が必要な人たちに對する支援方法に現在でも課題があることが話されました。

最後に、地域の人が一つにまとまることこそが最大の力であると話されました。

九月一日に開かれた第二講は、百余名の皆さんが参加し、飯田市美術館学芸員の村松武さんに「私たちの住む地域の地質と想定される災害」と題して講演いただきました。

村松さんは、まず基礎知識として地震や断層の仕組み、震源や震度、マグニチュードといった用語の解説をされました。

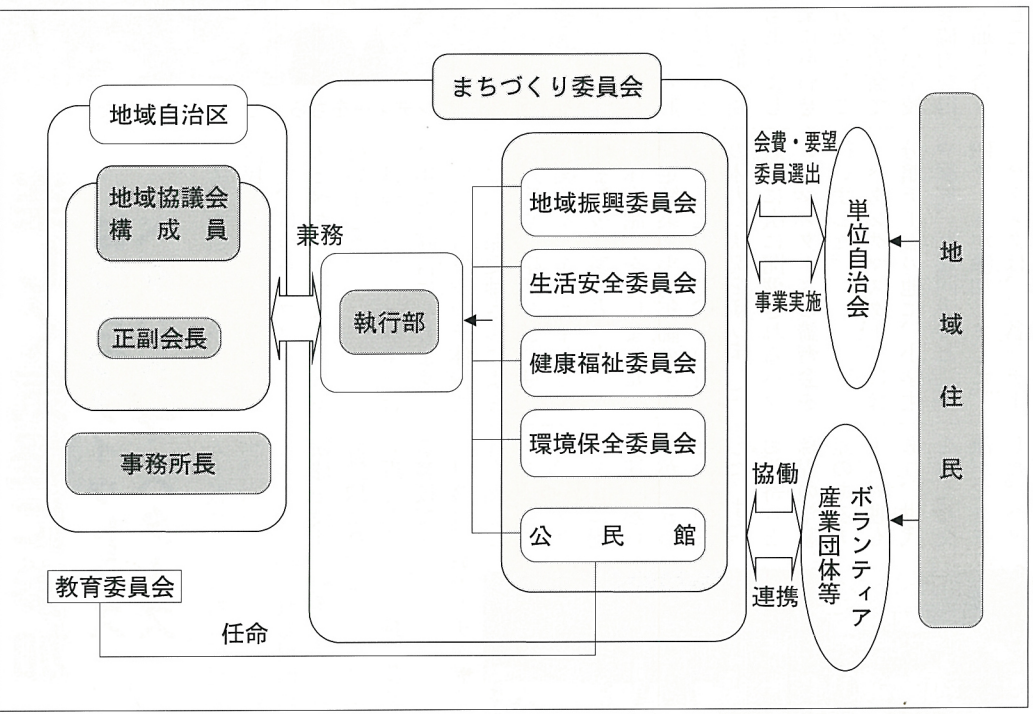
その後、直下型地震の代表例として新潟県中越地震を取り上げ、平地では盛り土や氾濫原が、山地では軟らかい地盤や開発された急傾斜地で被害が大きかったことを説明されました。

また、東海地震と伊那谷直下型地震について話され、伊那谷周辺の活断層の状況や地震発生確率にも解説してくれました。

最後に地震に強いまちをつくるには、地震が起きたときに家のなか

公民館としても、活動の精神を活かし、学びながら地域づくりをしていくこと、他団体と連携し取り組んでいくことがより一層求められてきます。

公民館としても、活動の精神を活かし、学びながら地域づくりをしていくこと、他団体と連携し取り組んでいくことがより一層求められてきます。



災害に備える 市民大学講座

八月二十一日と九月一日の両日、竜丘市民大学講座が公民館大ホールにおいて「防災」をテーマに開催され、多くの住民の皆さんが参加して防災に関する認識を新たにした。

八月二十一日に開かれた第一講は、約百名の皆さんが参加し、「復興を支えた間」にわたる避難生活では、生活のルールや治安の維持、食料等の平等な配給などに気を配ったことなどを話されました。

また、災害時に大きな助けになった若い担い手の育成や、高齢者や障害者などの援護が必要な人たちに對する支援方法に現在でも課題があることが話されました。

最後に、地域の人が一つにまとまることこそが最大の力であると話されました。

九月一日に開かれた第二講は、百余名の皆さんが参加し、飯田市美術館学芸員の村松武さんに「私たちの住む地域の地質と想定される災害」と題して講演いただきました。

村松さんは、まず基礎知識として地震や断層の仕組み、震源や震度、マグニチュードといった用語の解説をされました。

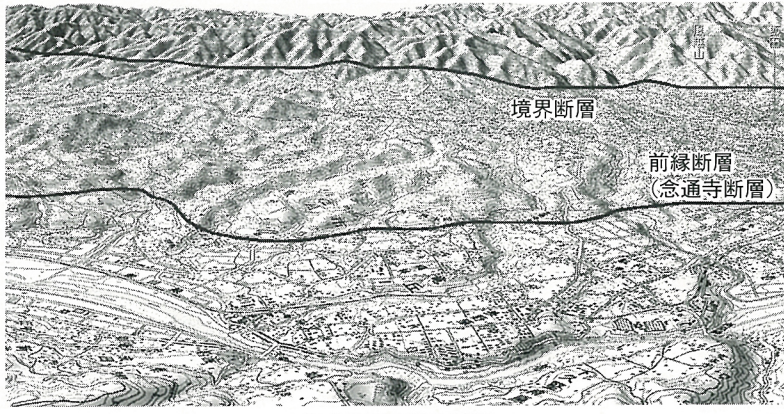
その後、直下型地震の代表例として新潟県中越地震を取り上げ、平地では盛り土や氾濫原が、山地では軟らかい地盤や開発された急傾斜地で被害が大きかったことを説明されました。

また、東海地震と伊那谷直下型地震について話され、伊那谷周辺の活断層の状況や地震発生確率にも解説してくれました。

最後に地震に強いまちをつくるには、地震が起きたときに家のなか

公民館としても、活動の精神を活かし、学びながら地域づくりをしていくこと、他団体と連携し取り組んでいくことがより一層求められてきます。

公民館としても、活動の精神を活かし、学びながら地域づくりをしていくこと、他団体と連携し取り組んでいくことがより一層求められてきます。



竜丘地区地形俯瞰図

